

紙おむつ（乳幼児用・大人用）の生産数量推移

- 紙おむつの生産数量は乳幼児用・大人用ともに増加傾向にあり、2018年には合計約235億枚（乳幼児用151億枚、大人用84億枚）となっている。
- 2018年の生産数量は、乳幼児用では2010年の1.7倍、大人用では1.5倍である。

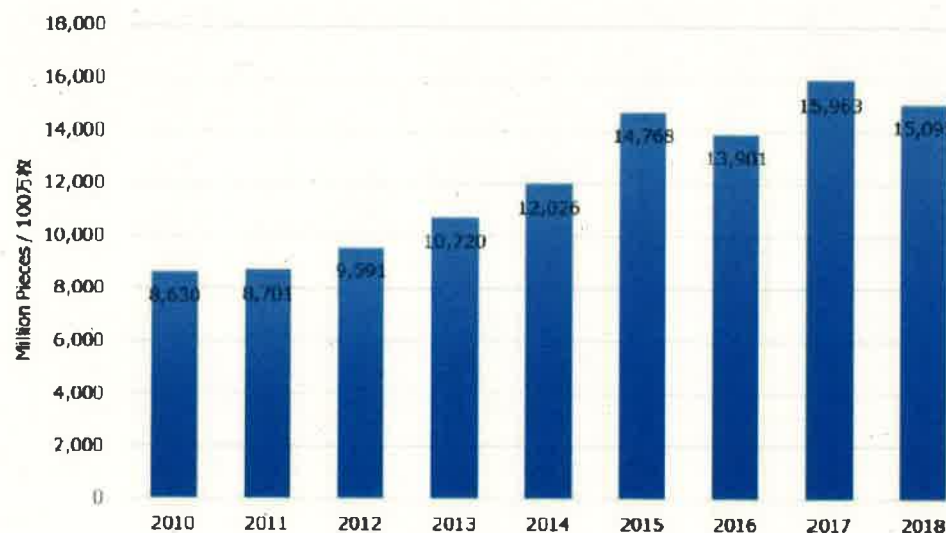
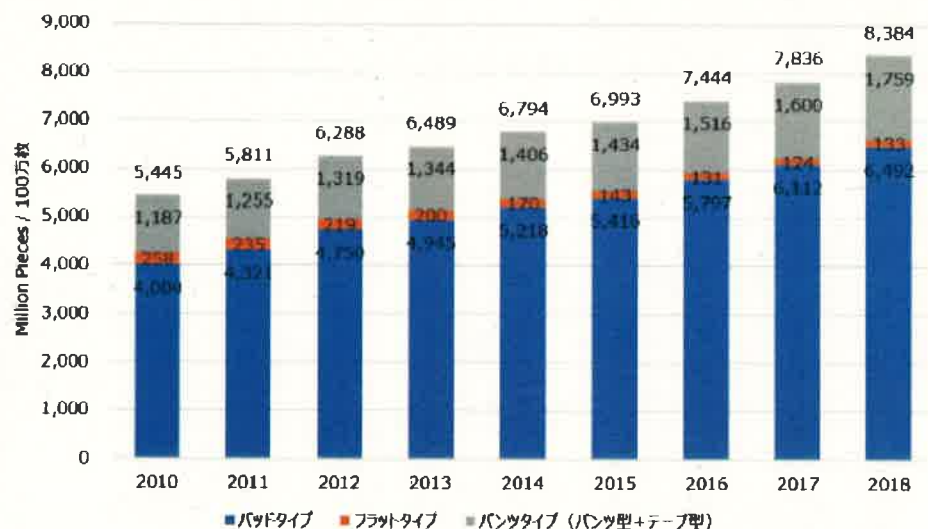


図1 乳幼児用紙おむつの生産数量推移

（出所）一般社団法人日本衛生材料工業連合会
乳幼児用紙おむつの統計データ

<http://www.jhpia.or.jp/data/data5.html>

（最終閲覧日：2019年11月1日）



国内向け、海外向け数量の合計（日衛連調べ）

図2 大人用紙おむつのタイプ別生産数量推移

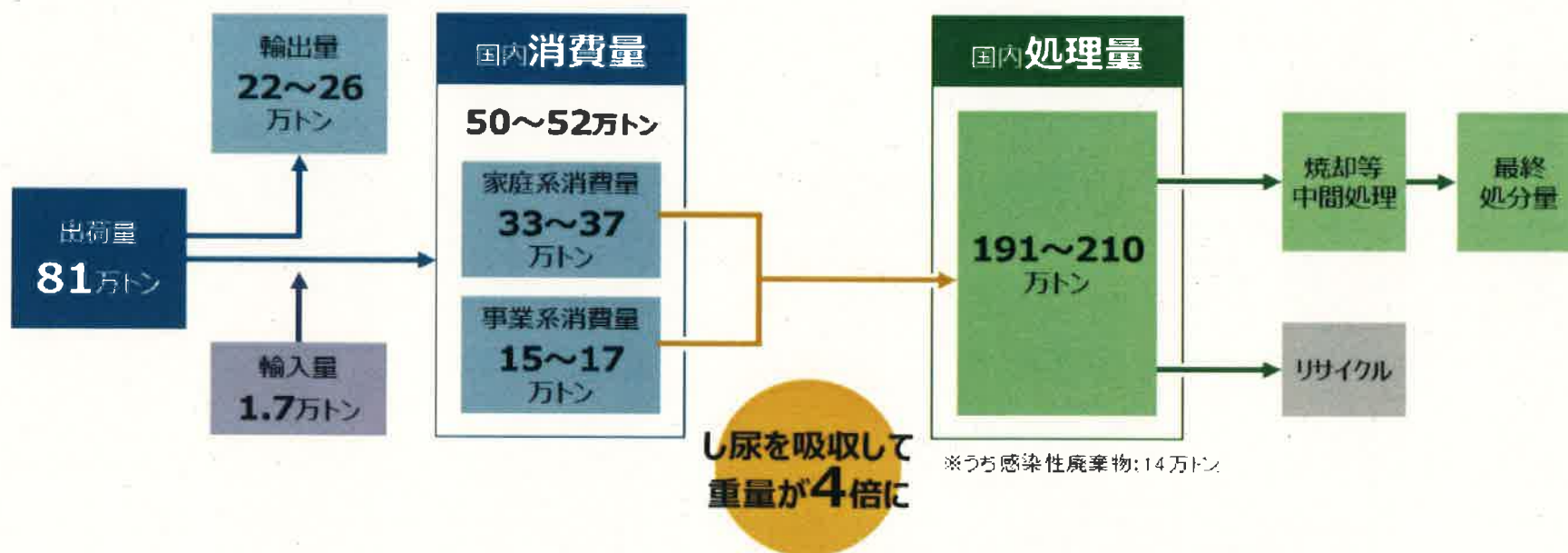
（出所）一般社団法人日本衛生材料工業連合会
大人用紙おむつの統計データ

<http://www.jhpia.or.jp/data/data6.html>

（最終閲覧日：2019年11月1日）

紙おむつの消費量・排出量のフロー推計（2015年度）

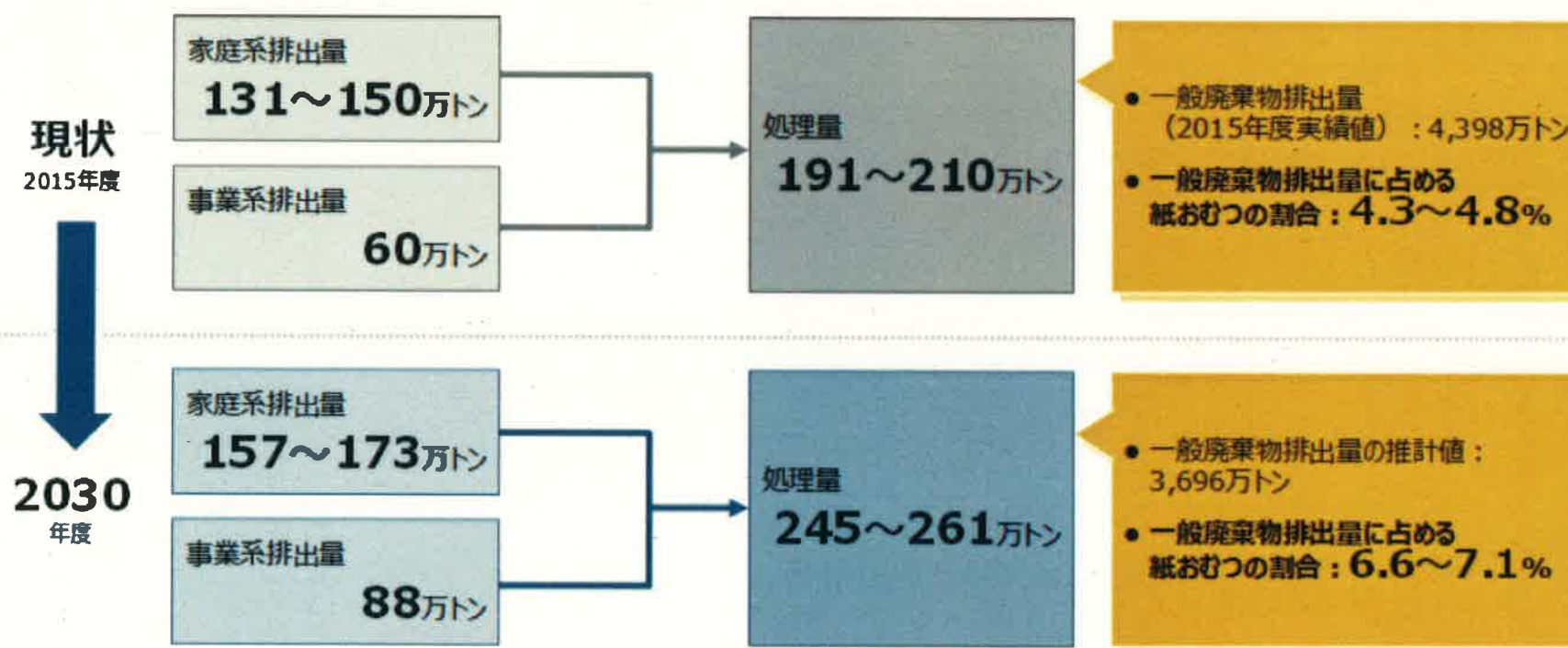
- 紙おむつの出荷量**81**万トンのうち、約**50～52**万トン（うち家庭系**33～37**万トン、事業系**15～17**万トン）が国内で消費されていると推計される。
- 国内で消費された紙おむつは、し尿を吸収して重量が約**4**倍になり、国内処理量は**191～210**万トンになると推計される。



出所：平成28年経済産業省生産動態統計年報、福岡都市圏紙おむつリサイクルシステム検討委員会 報告書（案）、財務省「貿易統計」他、各種公表資料を用いて三菱総合研究所にて推計。

一般廃棄物に占める使用済紙おむつの割合

- 現状（2015年度）では、一般廃棄物に占める紙おむつの割合は**4.3～4.8%**と推計される。
- 2030年度には、一般廃棄物に占める紙おむつの割合は**6.6～7.1%**と推計され、地域によってはより高い比率となる可能性もある。



出所：2030年度の一般廃棄物発生量については、①環境省「日本の廃棄物処理」からの回帰分析による推計、または②環境省「循環型社会形成推進基本計画」より、平成32年度（2020年度）に、一般廃棄物の排出量が平成12年度比で約25%減少し、その水準が2030年度まで横ばいになると仮定した。2030年度の紙おむつ排出量・処理量については、人口推計他、各種公表資料を用いて三菱総合研究所にて推計。